

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療栄養学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
13056	3	前期	必修	1	45
授業科目名 (英文)	公衆栄養学実習 (Practical work for Public Health Nutrition)				
担当教員名	梶 忍				
授業の概要及び到達目標					
<p>○授業の概要</p> <p>地域社会の健康・栄養問題および関連要因の把握課と題分析を行い、地域社会の関係者・関係機関の横断的な連携・協働を促進し、健康・栄養施策の計画立案、実践、評価、フィードバックを行う公衆栄養管理能力の基礎を習得する。</p> <p>地域・職域における公衆栄養活動を合理的・理論的に実践するために必要な「公衆栄養マネジメント」また栄養評価のための「食事・栄養調査法」や「データ演習」の技能や理論などを学ぶ。</p> <p>○到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養活動の目的を理解する。</li> <li>・公衆栄養活動は、マネジメントサイクル（問題の把握、事業計画の立案、実施、結果評価）に基づき実施されていることを理解する。</li> <li>・行政における健康政策は、対象範囲や規模により階層的構成であることを理解する。</li> <li>・代表的な食事・栄養調査方法を理解し、栄養評価のためのデータ収集能力を身につける。</li> <li>・公衆栄養活動事業について計画書の作成、立案、実施、評価を行い実務能力を身につける。</li> <li>・地域・行政・他団体と連携した公衆栄養活動の一環として「献立」や「食育ツール」の作成を通して、地域参加や食環境づくりなどについて理解する。</li> <li>・既存の地方自治体の健康増進計画や食育推進計画を調べ、国レベルの結果評価と比較しながら、国レベルや地域レベルの課題と施策の関係を理解する。</li> <li>・集団の食事摂取量データを用いて、基礎統計、分布を用いた評価、平均値の差の検定、相関係数等を学び、データ編集・解析・評価・考察を行い、実践的なデータ編集能力や解析能力を身につける。</li> </ul>					
準備学習等					
<p>○栄養調査方法（秤量法、24時間思い出し法、FFQ等）の長所、短所について復習しておく。</p> <p>○自分の身近な地域における公衆栄養活動について調べておく。</p> <p>○表計算ソフト（エクセル等）、統計ソフト（JMP）、栄養計算ソフトなどの使用方法や1年次に学んだデータサイエンスの教科書を用いて復習しておくこと。</p> <p>○統計学や、検定方法（t検定、<math>\chi^2</math>乗検定など）や検定の考え方について、復習しておく。</p> <p>○事前学習として、該当部分の公衆栄養学実習ワークブック、公衆栄養学、データサイエンスの教科書の該当部分を読んでおくこと。</p>					
成績評価の方法	<p>○授業出席状況（15%）、実習毎のレポート課題提出（15%）</p> <p>公衆栄養事業計画書の作成と実践活動への参加（20%）</p> <p>課題発表・プレゼンテーション計2回（20%）</p> <p>期末試験（30%）これらを総合的に評価する。</p>				

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「新版公衆栄養学実習ワークブック」徳留裕子・東あかね（編） （(株) みらい）</li> <li>○「カレント公衆栄養学」 由田克士・押野榮司編（建帛社）</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事調査マニュアル 第3版. (2016) 南山堂</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業ではパソコンを必ずお持ちください。(JMP、栄養君、エクセルを使用)</li> <li>○地域・行政機関と連携した実習内容が一部含まれます。 連携先の都合で提出物作成などが実習課題テーマに盛り込まれます。 そのため、シラバスの順序・内容が変更される場合があります。 外部施設との連携や行政機関との臨機応変な日程調整も本実習の学びの一部となります。その心づもりで実習には臨んでください。</li> <li>○オフィスアワーは desknet' s の一覧を確認すること。</li> <li>○レポートやは、翌々週の講義までに返却いたします。 返却時にその内容について振り返り（復習）を致します。</li> <li>○本科の単位取得は、「臨地実習Ⅰ・Ⅱ」の履修条件である。</li> <li>○卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> </ul>
授 業 計 画	
<p>実習構成：前半：公衆栄養活動マネジメント（後半：主に事例を用いた実習）</p> <p>第 1 回：オリエンテーション・食事調査の概要（pp モデルによる課題の抽出）</p> <p>第 2 回：公衆栄養マネジメントサイクルの概要（地域の選択）</p> <p>第 3 回：地域アセスメント①（習慣的食事摂取量の評価）</p> <p>第 4 回：地域アセスメント②（食環境の調査）</p> <p>第 5 回：優先課題の選定・重点目標の設定</p> <p>第 6 回：評価計画を含めた計画の立案（健康教室の企画・目的の設定）</p> <p>第 7 回：事例検討（グループによるワーク）</p> <p>第 8 回：アンケート調査の企画</p> <p>第 9 回：（スライド発表：各グループの発表）</p> <p>第 10 回：地域アセスメント②（食事記録調査・国民健康・栄養調査）</p> <p>第 11 回：食事調査法（24 時間思い出し法・FFQ）</p> <p>第 12 回：食事摂取基準による栄養素等の集団の評価（分位・パーセンタイル）と個人評価 （合計実習時間数：180 分×12 回）</p>	